

2016年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	新原道信		
NAME	Michinobu Niihara		

1. 研究課題

(和文) 惑星社会の「限界を受け容れる自由」に関するリフレキシブな比較調査研究

(英文) Reflexive “Comparatology” for the free acceptance of our limits in the planetary society

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

(1)惑星社会の「限界を受け容れる自由」(メルッチ)をテーマとして、イタリアの社会学者A. メルッチの社会学理論と方法に基づき、個々人の行為のレベルにおける微細な変動について、“リフレキシブな比較調査研究”を行った。(2)調査研究の主要なフィールドは、「3.11」の被災者を受け入れた日本の地域社会である。比較対象は、日本社会と共通の諸問題を抱えるイタリアの三つの特別自治州であり、両者の比較調査研究を行った。(3)1980年代以降の日本とイタリアの地域社会と社会運動の動態、その構造とメカニズムに焦点を合わせ、「可視的な社会運動」の“深層／深淵”で生起する“毛細管現象／胎動／交感／個々人の内なる社会変動”の把握をめざし、日本・イタリアの研究者との協力体制により、社会運動論・臨床社会学・歴史社会学などによる複合的アプローチである“リフレキシブな調査研究”に基づき実施した。惑星社会研究会、“うごきの比較学”研究会を運営し、“うごきの場に居合わせる社会学(Sociology of being involved with the field)”の理論と方法の錬磨につとめた。(4)その結果、“うごきの場”および“未発の状態”に関して、“リフレキシブな調査研究”の方法論的錬磨と、「惑星社会の諸問題」への“知覚”と“生存の在り方”の見直し)の側面を抽出し、研究成果を“うごきの比較学”という方向性としてとりまとめた。

(英文)

This “Reflexive research” evolved from a project called 《Reflexive “Comparatology” for the free acceptance of our limits in the planetary society》. My research experience of encountering the “wise on the frontier/liminal territories” in Italy and Japan and being involved in the “crude reality” submits a theoretical framework for conceiving and coping with the ongoing problems. In that, the research sets out a preliminary exploration for what might be called “Comparatology” of nascent moments.